

Slovenia Monthly August 2022

スロベニア マンスリー

発行：在スロベニア日本国大使館 発行日：2022年9月16日



～8月の主なポイント～

内 政：大統領選挙キャンペーンが本格化
外 政：第17回ブレッド戦略フォーラムの開催
経 済：ゴルニャ・ラドゴナ国際農業・食品フェア(AGRA)の開催
エネルギー危機のための会合の開催
スポーツ：クライミング欧州選手権でガルンブレットが3つ目の金メダルを獲得

政治

【内政】

●ポルリャネク氏が大統領選立候補を表明【3日】

欧州人権裁判所(ECHR)でスロベニア市民の弁護に成功したルドヴィク・ポリャネツ氏が大統領選挙に出馬することが明らかになった。同氏は、スロベニアや欧州の法律や社会秩序に精通しているため、出馬を決意したと述べた。

●2021年の反政府デモに対する警察の行為に関する報告書【5日】

2021年を通じて行われた反政府デモにおいて、警察官が専門外の行動をとり、不釣り合いな力行使したケースが4件あったことが警察の職務に対する苦情に関する内務省の報告書で明らかになった。内務省は国家検察に調査結果を通知し、警察はすでに一定の措置を講じている。ポブナル内務大臣は、公共の集会の際の警察の行動方針について、前任者による以前の指導を取り消し、新たな指導を発表した。

●極右メディア関係者が大統領選出馬を表明【5日】

極右メディア関係者でホロコースト否定論者のアレシユ・エルネツル氏が、10月23日の大統領選に参戦

する方針を明らかにした。8月4日夜にYouTubeで出馬を発表したエルネツル氏は、スロベニアの役割は、スロベニア人に他のどの国にもない特権を提供することだとしている。スロベニア人は国内で発言権を持っておらず、欧州大西洋組織はスロベニア人の絶滅につながると考えているとの懸念を表明した。

●婦人科医センチャル氏、大統領選への出馬を表明【10日】

産婦人科医のサビナ・センチャル氏は、大統領選挙に立候補を表明した。新型コロナウイルス流行の中、規制に反対するために設立された非議会政党である真実党(Resni.ca)の支援を受けて出馬する。

●ヤンシャSDS党首によるSDへの名誉毀損に関する判決が確定【17日】

ヤンシャ民主党(SDS)党首が、社会民主党(SD)が「盗まれたユダヤ人の別荘」で活動していると主張したことに対して、1万ユーロの損害賠償を支払い、謝罪するよう命じる判決が確定した。SDは、2021年10月のヴェレニエ地方裁判所の判決に対するヤンシャSDS党首の控訴に対するツェリエ高等裁判所の同判決は、「ヤンシャ氏は再び彼の嘘の発言に対する説明責任に直面した」とした。

●新社会民主党マガイナ氏が大統領選に参加【18日】

非議会政党である新社会民主党のマガイナ党首は、10月の大統領選挙への立候補を表明した。同氏は、スロベニアの主な問題として、民主主義の欠如、監督機関の機能不全、汚職を指摘した。同氏は、2008年から2011年にかけて社会民主党(SD)党員として国民議会議員を務めた。

●大統領選挙キャンペーンが本格化【22日】

22日、大統領選挙の候補者が正式に立候補し、有権者の署名集めが開始され、大統領選挙キャンペーンが本格化した。候補者は9月28日までに国家選挙管理委員会に立候補の届け出を行う。候補者は、政党の正式候補であれば3人の国民議会議員の署名又は3,000人の有権者の署名、無所属で立候補する場合は10人の国会議員からの支持又は5,000人の有権者の署名が必要となる。

社会民主党(SD)は大統領選に党公認の候補を出さず、どの候補者も党として支持を行わない旨決定した。ただし、決選投票が行われる場合には党としてどちらの候補者を支持するか決定する可能性があるとした。

また、ライフスタイルコーチのボリス・ベネ氏が、大統領選への立候補を表明した。同氏は、子どもの予防接種の義務化と伝染病法の最新の改正に反対する市民団体「ヘルシー・ソサエティ」の支持を受けており、有権者の署名集めを始めている。

●ヴァイグル氏、大統領選への出馬を表明【23日】

元外務大臣及び元欧州議会議員であるイヴォ・ヴァイグル氏が大統領選に出馬する意向を表明した。同氏は立候補を支持する署名を集め、「非常に著名な政党」の支持を得ることを期待しているとしたが、今のところどの政党かは明らかにしていない。同氏は、政治、外交、ジャーナリズムでの長年の経験により、他の候補者とは異なる内容を提供するとして、自身を他の立候補者の代替案としている。

●コウシュツァ国民議会議員の大統領選出馬への可能性【25日】

25日、コウシュツァ国民評議会議員は、大統領選に出馬する意向を表明し、各政党に支持を呼び掛けた。同議長は、幅広い政党、運動、著名な個人によって支持される場合にのみ出馬するとし、そのような支持なしには出馬する意味がないと述べた。

同議長は、大統領選に出るかどうかの判断は、個人的な判断だと述べた。同議長が副党首を務める政党「具体的に(Concretely)」にはその旨を伝え、一定の前向きな回答を得たが、同党は同議長の出馬への支持について決定していない。

同議長は、大統領選に失敗した場合、国民評議会議長として再選を目指すかどうかは、まだ決めていないと述べた。

●コス候補が大統領選を辞退【30日、31日】

30日、10月23日実施予定の大統領選挙における与党自由運動党(GS)の公認候補であったマルタ・コス副党首が「私的な理由で状況が変わったため」として出馬を辞退した。コス候補は、自分は、人々が相互に敬意と信頼を持った、連帯に基づいたスロベニアを信じており、それらの価値を追求するために引き続き最大与党(GS)の副党首としての任務を継続したいとしつつ、自らの出馬を支持していた全ての関係者に感謝を表明した。

31日、GSは、大統領選のマルタ・コス副党首に代わる候補を選ばないことを決定した。党執行委員会の会合後、ゴロブ首相は、2週間以内に他の候補者の中から推薦する候補者を決めると発表した。

●リュブリャナ・マラソン、大統領選当日に開催【31日】

第26回リュブリャナ・マラソンは、10月23日の大統領選挙と同日に開催される。この国内最大のイベントの主催者は、有権者が混乱なく投票所にアクセスできるよう日程の変更を検討してほしいという国家選挙管理委員会の要請を拒否し、「有権者が安心して投票所にアクセスできるよう、最善の解決策と一緒に見つけることができると確信している」と述べた。

【外政等】

●ファヨン外相のNPT再検討会議出席【1日】

ファヨン外相は、ニューヨークで開催された核拡散防止条約の再検討会議に出席し、ウクライナでの戦争がヨーロッパに最悪の安全保障の脅威を引き起こしたと述べ、ロシアに敵対行為を停止し、ウクライナから撤退することを要請した。同外相は、スロベニアがウクライナとその自衛権を支持し続けることを強調した。また、小麦を輸送する船舶のオデッサからの出発を歓迎し、これは対話が可能であるという兆候であると信じている旨述べた。また、同外相は、ブリンケン米 국무長官及びグテーレス国連事務総長とそれぞれ会談し、スロベニアの安保理非常任理事国立候補等について協議した。また、9月の国連総会出席後、ラテンアメリカ、アジア、アフリカを歴訪する予定である旨発表した。

●パホル大統領のトルコ訪問【9日、10日】

9日、パホル大統領はトルコを訪問し、チャヴシュオール・トルコ外相と会談した。両者は、ウクライナにおける戦争とその西バルカンへの影響について協議し、パホル大統領はトルコがロシアとウクライナの間で、特に穀物の輸出について、仲介者として果たしている役割を賞賛した。また、10日、パホル大統領は、エルドアン・トルコ大統領と会談し、両国の良好で友好的な関係を確認した。両者はウクライナにおける戦争と西バルカンについて協議し、9月下旬に開催される国連総会の際に再びこの話題に触れることに合意した。また、パホル大統領とハーン経済開発・技術大臣は、貿易・投資の強化を目的としたビジネスイベントでも講演を行った。両国はまた、教育、科学、スポーツに関する二国間協定に署名した。

●イタリア、バルサミコ酢をめぐりスロベニアに対する訴訟手続きを開始【10日】

オーストリアの報道機関APA、イタリアの報道機関Ansa及び英国ガーディアン紙は、イタリア政府が、地理的に保護されているバルサミコ酢の真正性を守るため、スロベニアに対して訴訟を開始すると報道した。イタリアは1年以上前に、スロベニアの酢と希釈酢酸の品質に関する規則案に異議を唱えていた。規則案では、濃縮果汁やマスト(発酵途中のワイン)を混ぜた酢はバルサミコ酢と表示できるとしている。

●パホル大統領とヨハンネソン・アイスランド大統領の会談【28日】

リュブリャナで会合したパホル大統領とヨハンネソン・アイスランド大統領は、ウクライナ危機の外交的解決策を要請した。両大統領は、西バルカン諸国におけるスロベニアの重要な役割を強調し、スロベニアとアイスランドの良好な関係を再確認した。両大統領

は、国際社会における多国間主義および政治的・法的秩序の重要性を強調し、多国間主義の強化に取り組むことを約束した。

●ブレッド戦略フォーラムの開催【29日、30日】

29日～30日、「The Rule of Power or the Power of Rules?」のテーマの下、第17回ブレッド戦略フォーラム(BSF)が開催された。開会式では、ファヨン外相、パホル大統領及びフォン・デア・ライエン欧州委員会委員長が演説した。同フォーラムでは、ロシアによるウクライナ侵攻とその影響、エネルギー危機及びEUの西バルカン拡大等が議論の中心となった。BSFのメインセッションであるリーダーズパネルでは、ゴロブ首相、ヨハンネソン・アイスランド大統領、プレンコビッチ・クロアチア首相及びラマ・アルバニア首相が参加した。また、同パネルの冒頭ではゼレンスキー・ウクライナ大統領がビデオ演説を行った。同フォーラムのサイドラインでは複数のバイ会談が行われ、ゴロブ首相は、プレンコビッチ・クロアチア首相やフォン・デア・ライエン欧州委員会委員長等と会談した。

●ファヨン外相、ロシアのビザ政策に関するEUのコンセンサスを歓迎【31日】

ファヨン外相は、EU加盟国の外相が2007年のロシアとの査証発給円滑化協定を停止する決定を下したことについて、「ロシアの容認できない侵略行為を非難する我々の決意を明確に物語る」措置であると歓迎した。同外相は、今回の決定により、ロシア人に対するEUビザの発給数は大幅に減少するが、学生やジャーナリストなどのグループや、ロシア政権から深刻なリスクを負っている個人は、引き続き迅速なビザ発給を受けられると述べた。

経済

【経済一般、指標・統計】

●干ばつによる農作物への影響【1日】

本年の干ばつ被害は自然災害の国家支援の対象として定められた限度額(予算収入の0.03%)を超えることが既に明らかになっており、緊急立法が必要な状況となっている。農業・林業会議所(KGZS)の責任者であるジュヴェグリッチ氏によると、被害額が6,500万ユーロと推定された2017年よりも状況は悪化している。事実上すべての作物に影響があり、特に野菜、果樹園、永続的な農地、畑作に影響がある。なお、本7月はリュブリャナでこれまでで最も暑い月となった。平均気温は24.4度で、降雨量は通常の3分の1から半分程度であった。

●7月の失業者数【3日】

7月の失業登録者数は前月比0.9%増の54,341人と微増したが、前年同期比では23.1%の減少を記録した。7月に雇用サービスに再度登録した人は計5,008人で、6月より26.8%多く、前年7月より8%少なかった。

●貿易量の増加【4日】

2022年前半のスロベニアの輸出は前年比32.1%増、輸入は同47%増となり、22億ユーロの貿易赤字となった。6月の物品の輸出額は前年比57.2%増の53億ユーロで、輸入額は記録的な48億ユーロ(40%増)となった。

●第2四半期の求人数は15年ぶりの高水準に【11日】

第2四半期にスロベニアで募集された求人は約2万5,900件で、同数字は、統計局が2008年に調査を開始して以来、最高となった。第2四半期の求人数は、第1四半期と比較して6%、昨年第2四半期と比較して25%、約5,100件増加した。

●食料手当導入の可能性【12日】

ゴロブ首相は、9月に開始する価格監視システムが成果を上げられなかった場合、政府は秋に食料手当を導入する可能性があるとし、10月には、食料価格規制に関して、より厳格な措置が必要かどうかを見極めるとした。同首相は、エネルギー価格は300~500%も値上がりしており、より大きな問題であるため、政府はまずこの問題に取り組んできたと述べた。

●新しい遊水池・貯水池の建設を発表【16日】

ゴロブ首相は、干ばつ時に農家が作物を灌漑できるよう、新たな遊水池と貯水池を建設することを発表した。同首相は農家との会合の後、「我々はもはや、

すでに到来している気候変動と戦うのではなく、緩和から始めなければならない。国として気候変動にうまく取り組むには、灌漑システム、貯水池、水供給システムの接続が鍵になるだろう」と述べた。

●政府、企業のエネルギーコスト削減のための4千万ユーロの支援策を決定【18日】

政府は、エネルギーコストの上昇に対処するため、本年と来年に4千万ユーロを企業に支給する支援策を確認した。ハーン経済開発・技術大臣は、企業セクターを支援する取り組みの第一歩として、本年中に2千万ユーロ、2023年3月中旬までに2千万ユーロを提供する予定であることを明らかにした。企業のエネルギーコストの30%または70%(特にエネルギー消費が大きく、収支が赤字となる場合のみ)をカバーする。商工会議所(GZS)は、この支援策を「EUの法的枠組みを考慮した適切な措置である」と歓迎した。

●ゴルニャ・ラドゴナ国際農業・食品フェア(AGRA)の開催【20日】

8月20日、30カ国以上から1,750もの出展者が参加する第60回AGRAは、日本をパートナー国とし、パンデミック以前の形で開幕した。

スロベニアの農業は、自然災害、コスト上昇、価格圧力など、食糧生産においてますます厳しい環境にさらされている。今年の夏は2003年以来最悪の干ばつに見舞われ、すべての作物に影響を受け、特にトウモロコシと牧草地が被害を受けた。食肉も含め食料価格は上昇しており、最新の統計では、スロベニアの食肉価格は7月に年間13.5%の上昇を記録した。これらの課題については、多くの専門家団体や農業省との共催で行われる講演会やパネルディスカッションで議論され、雹を防ぐためのクラウドシーディング、灌漑、林業や土地利用におけるEUの気候目標への対応、農業における地熱の利用などについての議論が行われた。

パートナー国として参加した日本は農業と先端技術の両方を展示し、10社が日本料理の実演と試食を行った。開会式で挨拶した日本の皆川農林水産大臣顧問は、日スロベニア関係を賞賛し、日本人はこのフェアに参加することを誇りに思っていると述べた。

●国民議会、エネルギーに関するVATを引き下げる法律を可決【23日】

国民議会は、2022年9月1日から2023年5月31日までの間に、電気、ガス、バイオマス、遠隔暖房のVATを22%から9.5%に引き下げるVAT法の改正を全会一致で可決した。同変更は、生活費の危機を緩和する努力の一環として行われる。

●エネルギー価格高騰の中小企業への影響【24日】

貿易工芸・小規模企業会議所(OZS)が会員企業に対して行った調査によると、エネルギー費用の高騰が調査対象の3分の1の企業の存続を脅かしていることが明らかになった。状況はさらに悪化するため、同会議所は政府に対し、2023年の経済を支援するための対策を早急に打ち出すよう要請した。OZSのメンバーである820人の起業家を対象に最近行われた調査では、4人中3人が高いエネルギー費用による利益の減少を予想しており、32%が事業の存続が脅かされていると回答した。

●クロアチアとのガス供給協定締結を決定【25日】

スロベニア政府は、クロアチアとの間でガス供給の安全性を確保するための連帯措置について合意することを決定した。この協定により、ガス供給が途絶えた場合、スロベニアはクロアチアに対し、スロベニアの保護対象顧客に対するガス供給を要請することができ、逆も同様となる。イタリアとの同様の協定はすでに批准されており、オーストリアとも同様の協定締結に向けて手続きが進められている。

●エネルギー危機のための会合【29日】

ゴロブ首相は、リュブリャナで行われた各党党首、産業専門家及びエネルギー企業との会合後、エネルギー危機における協力の必要性について認識が一致したことを歓迎した。ゴロブ首相によると、今回の会議ではエネルギー部門に焦点が当てられ、4つの関連法案が提出された。そのうち2つは新しい法案で、ガス供給法の改正とエネルギー供給における緊急事態への対処に関する法案であった。同首相は、これは今後数週間から数か月にわたって政府がエネルギー市場に積極的に介入するための基礎となる新しい枠組みであり、現在の状況のみならず、来年の供給状況を安定させることができるだろうと述べた。

ゴロブ首相によれば、最大の課題は、機能不全に陥ったエネルギー市場であり、具体的な流動性や取引もなく価格を上昇させ、更なる資金注入を必要とし、その結果、この状況に対処することに集中すべきエネルギー企業を弱体化させているとした。

国内送電網を運営するELES社のメルヴァル社長は、先物取引所は流動性が低いため、欧州委員会が先物取引所の取引を停止することを期待するとした。また同社長は、スロベニアは、輸入依存度の高さのため、電力価格が現在欧州で2番目に高いと指摘した。

●インフラ省作成の非常事態についての法案【29日】

8月29日、インフラ省は、電気やガスの供給が断絶した場合に政府が非常事態を宣言できるようにする法案を作成した。同法案は、消費削減、EU外での

ガス購入に対する国家保証(最大3億ユーロ)、更に燃料の切り替えの場合の環境基準からの除外などの措置を提供するものである。

同草案は、9月26日までの政府間協議のために提出されたもので、政府は、既存の又は予想される供給断絶の場合に、高レベル或いは低レベルのリスクを宣言できるようになる。

低リスクであれば、供給の緊急事態に備え、エネルギー会社や消費者に緊急事態への準備と実行可能な対策を通知することになる。

天然ガスと電気の供給に非常事態の宣言が出された場合、高レベルのリスクとなる。この段階では、発電と暖房のために国家の潜在能力全てを利用することとなる。政府は国営企業に対してエネルギーの安定供給を確保するための措置を採るよう直接命令できるようになる。また、非常事態宣言が出される場合、10月1日から半年間のクルシュコ原発下流のサヴァ川の温度は、元々の規定より0.5度高い3.5度を上限とすることになる。ガスに関しては、親会社は、11月1日時点で、スロベニア国内の最終顧客に対するガス供給量の少なくとも15%を他のEU加盟国に貯蔵することを義務づけられる。

最終消費者は、2022年10月1日から2023年3月31日までのガスと電気の消費量を、過去5年の同時期の平均消費量と比較して少なくとも15%削減する自主的な努力をすることが義務づけられる。

●社会的弱者や企業への8,100万ユーロの支援【31日】

国民議会は、ガスおよび電気料金の高騰により大きな打撃を受けた最も脆弱な人々及び企業に対して生活費を緊急支援する2つの法案を全会一致で可決した。最も脆弱な人々に対する4,100万ユーロのパッケージの一部として、約63,000世帯の103,000人と7,400人の障害者に、200ユーロの単発の援助が与えられる。2つ目の支援策は4,000万ユーロで、エネルギーコスト上昇の支払いを支援する必要がある企業向けである。

●8月の年間インフレ率は11%【31日】

8月の年間インフレ率は、7月に11%に達し、1995年8月以来の高率となった後、横ばいとなった。インフレ率の主な要因は、燃料やエネルギー、食品などの価格が上昇したことである。

●7月の失業率調査、4.2%【31日】

7月の失業率は、6月から0.2ポイント低下し4.2%となり、前年同月比では0.6ポイントの低下となった。同月のスロベニアの15歳から74歳の年齢層の失業者数は約42,000人だった。

【企業、産業の動向】

●欧州委員会、スロベニアにおけるMOLの買収に関する調査を凍結【17日】

ウェブポータル「ネツェンズリ」は、欧州委員会が、ハンガリーのエネルギーグループMOLによるOMVスロベニアのサービスステーション買収に関する詳細な調査を凍結したと報じた。調査は、MOLが欧州委員会に要求された情報を提供した時点で再開される。同ポータルによると、今回の凍結により、少なくとも年末までは手続きが長引くことになる。買収の結果、スロベニアにはMOLとペトロールという2つの大手燃料小売業者が残るのみとなる。

●ペトロール社、燃料価格上限規制により上半期に130万ユーロの純損失を計上【26日】

ペトロール社は、燃料価格規制の影響により上半期に130万ユーロの純損失を計上した。同グループは、燃料や石油派生商品の販売量の増加と価格上昇を背景に、売上高が126%増の42億ユーロとなった。EBITDAは前年同期比52%減の4,860万ユーロとなり、計画を64%下回った。同社は政府に対し、第1次価格規制で失った約1億1,000万ユーロの収入を補償するよう求めたが、補償されなければ同社の信用格付けが低下する可能性がある。政府は、補償に関する決定はまだ下りていないとしている。

治安

●強盗事件【11日】

8月上旬の平日の午後1時半ごろ、リュブリャナのツェロウシュカ通りで強盗事件が発生した。20歳前後の痩せ型の男が歩道にいた女性を地面に押し倒し、身に着けていた約500ユーロ相当の宝石を奪って逃走した。

●強盗事件【21日】

8月中旬の週末の午後11時頃、ドムジャレ市の公園で3人の男が被害者2人に近づき、バックパックを強引に奪って逃走した。被害者にけがはなく、被害額は約650ユーロであった。

社会・文化・スポーツ

【文化・生活等】

●山でナビゲーションを使用しないよう注意喚起【13日】

クラン警察署は、山へ向かうハイカーに対し、危険な状況に陥る可能性のあるGPSナビゲーションに頼るのではなく、標識付きの登山道と公式地図の使用を呼びかけている。この呼びかけは、ユリアン・アルプスのフォーゲル山周辺で7月に4回、救助隊が数人のハイカー（いずれも外国人）を救出したことを受けたもの。グーグルマップ等GPS上には最新の登山情報や安全情報がアップデートされていないことがある。4回の救助活動のうち2回の救助が実施されたルートは、すでにグーグルマップ上からは削除された。

●15年にわたる環境改善活動の後でも、子どもたちの血液からは鉛が検出【14日】

15年にわたって実施されてきたメジツァ溪谷上部の鉛と亜鉛の採掘跡の環境修復プログラムは今年終了するが、子どもたちの血液からはまだ微量の鉛が検出されることがわかった。3歳児から採取した血液を使った最新の検査では、数値は低いものの、国内の他の地域よりも高い数値が示された。

【スポーツ】

●欧州選手権でガルンブレットが3つ目の金メダルを獲得【17日】

東京五輪金メダリストのヤニャ・ガルンブレット選手は、ミュンヘンで開催されたクライミング欧州選手権の新種目ボルダー&リード複合で金メダルを獲得、3大会連続の金メダルに輝いた。ガルンブレット選手は、ボルダリングとリードの両種目で200点満点の金メダルを獲得し、最終総合199.9点を獲得した。「信じられない気持ち」と述べた。同じくスロベニアのミア・クランプル選手は2位に入賞した。

●シュティ選手、欧州陸上競技選手権で銅メダル獲得【17日】

欧州陸上競技選手権大会の棒高跳びで、スロベニアのティナ・シュティ選手が、屋外大会での自己ベストである4.76メートルにわずかに及ばない4.75メートルを跳び、銅メダルを獲得した。シュティ選手は、ウォームアップ中に軽いケガをし、手に包帯を巻いた状態で出場していた。

●チェフ選手が円盤投げで銀メダルを獲得【19日】

スロベニアの円盤投げ、クリスチャン・チェフ選手は、19日、ミュンヘンで開催された欧州陸上競技選手権大会の男子円盤投げで銀メダルを獲得した。現在の世界チャンピオンであるチェフ選手は、5回目の投擲

で68.28メートルを記録し、今大会の自己ベストをマークした。このメダルは、スロベニアにとって欧州陸上競技選手権大会10個目のメダルとなった。

●カヤックのオスターマン選手、欧州選手権で銀メダルを獲得【20日】

マルチスポーツ欧州選手権大会の女子カヤックシングル200メートルで、アニャ・オスターマン選手が銀メダルを獲得。金メダルにはわずかに0.213秒及ばず、2位となった。また、21日に開催された500メートルでは銅メダルを獲得した。

●ヨルギッチ選手、欧州卓球選手権で銀メダル獲得【21日】

ミュンヘンで開催された欧州卓球選手権で、スロベニアのダルコ・ヨルギッチ選手が銀メダルを獲得、スロベニアの卓球選手として過去最高の成績を収めた。

●カヌー選手4名がメダル獲得【28日】

フランスで行われたホワイトゥォータースラロームのワールドカップにおいて、スロベニア人カヌー選手のルカ・ボジッチ選手とベンヤミン・サウシェク選手選手が2位と3位に入賞した。また、オリンピックの新種目である女子エクストリーム・スラロームでは、エヴァ・テルチェリ選手とアイダ・ノヴァク選手が2位、3位に入賞。

スロベニア日本国大使館

電話: +386-1-200-8281 又は 8282、Fax: +386-1-251-1822、Email: info@s2.mofa.go.jp

Web: http://www.si.emb-japan.go.jp/website_jp/index_j.html

●本資料は、スロベニアに関心のある方であれば誰でも受け取ることができます。新たに配信を希望される方、あるいは今後配信を希望されない方は、以下のメールアドレスにご連絡ください。

info@s2.mofa.go.jp

★在スロベニア日本国大使館のフェイスブックもご覧ください！

スロベニアにおける日本の外交活動、文化行事のお知らせ等の情報を随時発信しております。

<https://www.facebook.com/Embassy.of.Japan.in.Slovenia>

★スロベニア人向けニュースレター「Living in Japan」のご紹介

当館では、毎月スロベニア人向けに日本紹介のニュースレター「Living in Japan (Življenje na Japonskem)」をスロベニア語で発信しています。今年は各都道府県に焦点を当てて、各地の歴史・産業・観光・物産品等を紹介してまいります。このニュースレターは当館のホームページでも公開しておりますので、どうぞご覧ください。

https://www.si.emb-japan.go.jp/itpr_si/Zivljenje_na_Japonskem.html

【領事班からのお知らせ】

●スロベニアに90日以上滞在される方は、在留届を提出してください。在留届の提出は、オンライン在留届(ORR ネット)が便利ですので、ぜひご利用ください。なお、過去に書面で在留届をご提出されている方でも、当館窓口においてお手続きいただくことで、オンライン在留届への切替が可能です。切替をご希望の方は、当館領事警備班までお問合せください。

【外務省オンライン在留届】: <http://www.ezairyu.mofa.go.jp/>

●新型コロナウイルス: 引き続き最新情報を入手し、感染予防に努めてください。当館HPでは、新型コロナウイルスに関するスロベニアの出入国規制などについてまとめたものを公開していますのでそちらもご覧ください。なお、規制は突然変更となる場合がありますので、最新情報についてはスロベニア当局にご確認いただくようお願いいたします。

【当館まとめページ】https://www.si.emb-japan.go.jp/itpr_ja/11_000001_00027.html

●当地での在留許可取得や在留許可延長手続きの際に必要な警察(犯罪経歴)証明については、申請から交付までに約2～3か月かかります。お手続きに必要な期間をあらかじめ考慮していただき、余裕を持って申請を行っていただくようお願いいたします。

【参考情報】

1. 外務省海外安全ホームページ

本サイトでは、各国・地域での新型コロナウイルスの発生状況、新型コロナウイルス(日本からの渡航者・日本人に対する各国・地域の入国制限措置及び入国・入域後の行動制限)等の情報を掲載しています。

<https://www.anzen.mofa.go.jp/>

2. たびレジ簡易登録

本サービスは、メールアドレスとメール配信を希望する国・地域を選択するだけで、当該在外公館から領事メールを受信することが出来ます。ぜひご活用下さい。

<https://www.ezairyu.mofa.go.jp/tabireg/simple/register>

3. スロベニア国立公衆衛生局は、国内状況や感染予防の方法等について公開しています。

<https://www.nijz.si>

(主にスロベニア語)

4. スロベニア政府が、新型コロナウイルスに関する特設サイトを開設しました。コロナウイルスに関連した保健省の特設電話番号はこちらに掲載されています。

<https://www.gov.si/en/topics/coronavirus-disease-covid-19/>

5. 新型コロナウイルス感染症に備えて ～一人ひとりができる対策を知っておこう～(首相官邸)

<https://www.kantei.go.jp/jp/headline/kansensho/coronavirus.html>

6. 新型コロナウイルス感染症に関する情報について(厚生労働省)

https://www.mhlw.go.jp/stf/seisakunitsuite/bunya/0000164708_00001.html

7. リュブリャナ空港ホームページ

<https://www.fraport-slovenija.si/en.html>

8. スロベニア政府の下記のツイッターアカウント等で、随時情報発信が行われておりますので、こちらをご確認ください。

●政府(英語): <https://twitter.com/govslovenia>

●政府(スロベニア語): <https://twitter.com/vladars>

(英語版と若干内容が異なります。)

●外務省: <https://twitter.com/mzzrs>

(主にスロベニア語)

●保健省: <https://twitter.com/minzdravje>

(主にスロベニア語)

【広報文化班からのお知らせ】

●スロベニア語字幕付 Japan Video Topics 配信中

当館 YouTube チャンネルにおいて、日本の文化や技術を紹介する Japan Video Topics のスロベニア語字幕版(英語音声)を配信しております。

Embassy of Japan in Slovenia – YouTube

●最新情報は、当館フェイスブックでチェック！

<https://www.facebook.com/Embassy.of.Japan.in.Slovenia/>